

進に生ず、樹木生ずれば水湧く、水あれば人民の居住も出來て、耕作の事もなれるといひし、其後京に歸り、年過て彼國の人の登り來れるに聞けば、近年は樹木も多く生ひ茂り、潔白の水湧て、人も住る、やうに成りぬれば、隅州より新島に宮居を建て、宮守を置、參詣の人もありといへり、いと早きものなり、其天地の中に國土を生せし事を、まのあたり見たることも不思議あまりあり、此日本國なども、神代のむかし湧出たるなどいふ物がたりは、只うはのそらに聞て、まこと、も覺へず有けるが、かゝる事をまのあたりみれば、空言にてはあらざりしと思はる、もと櫻島も、養老二年、此海大にもへて、天地晦冥し、一夜の間に七里餘廻りの高山湧出て、さくら島と名付し事とぞ、櫻島は比叡山よりも遙に高く大なるに、人民多く、田畠豊饒にして、繁昌の島なり、

〔長崎記中〕出島築立開基之事并同所家質銀ノ事

一 寛永十三子年、奉行榎原飛驒守馬場三郎左衛門支配ノ節、南蠻人町屋ニ徘徊停止被仰付、湊ノ内ニ島ヲ築立可押込由ニテ、俄ニ築島ヲ申付、其節手前宜町人共二十五人撰、差圖ノ通築之家藏ヲ建、南蠻人宿彼者ドモ被申付、島ノ總塀并表裏ノ門、公儀ヨリ作事、子丑寅ノ年迄三年、南蠻人被召置、町人ハ南蠻人ト相對ヲ以宿賃ヲトリ、此地ニテ商賣仕トコロ、寛永十五寅年爲上使太田備中守被差下、南蠻人日本渡海堅御停止ニ成、卯辰兩年出島明キ地ニナル、同十八辛巳年、奉行馬場三郎左衛門、柘植平右衛門支配ノ節、ランダ人平戸ヨリ御移シナサル、

〔神代餘波上〕靈岸島は、近き比築立新地間なき故に踏ありければ、大地うごく故に、俗に蒟蒻島といひし也、こゝに倡家ありて賑はしかりしが、今は商家となれり、

○按ズルニ、築島ノ事ハ、津篇造津條及び泊篇修泊條ニ詳ナリ、參看スペシ、

〔東遊記五〕浮島

出羽國山形より奥に大沼山といふ所あり、其山主を大行院といふ、修驗道にて俳諧の數寄人、俳